因島高校を支援する会

発行
因島高校を支援する会
会長　竹中啓修
題字　竹中啓修

因島市から50万助成金

「支援する会」では、補習やサテライン衛星放送を利用した高校の学力アップ及び、高校生の健全育成を学校やPTAと推進中でありますが、因島市及び教育委員会に助成金を陳情し、本年度五十万円の予算をいただきました。有効に活かしてまいります。

「多くは、地元高校への進学を望んでいますよ。保護者から聞いたことですが、外へでるとバス代もかかるし、遅くなればバス停まで迎えにいかんとならん。大変ですよ。」

「だから、因島高校で進路の実績をあげてくれれば、みんなしんどい目をしてまで外へ行かなくてもすむし、双方萬々歳ですよ。」

因島市教育委員会
岡野孝司教育長に聞く

この度、「新教育長」に就任された岡野孝司教育長に、「因島高校に期待すること、そして、因島の教育についての教育長の思い」について、因島高校村上正則ＰＴＡ会長が伺いました。

因島高校に期待するもの

―昨年から、因島高校を変えていこうと努力しているのですが、反応はいかがですか。

「このままでは、因島高校がなくなるかもしれない。地元の高校を、存続させねばという動きはでてきましたね。」

―因島市内の子が、市外の高校に進学するということは、因島高校にあまり魅力を感じていないということでしょうか。

「三年間高校で学んだ後の道が開けるか。将来の展望が開けるかということです。因島高校へ進学すれば、卒業後自分の希望した分野へ進めるんだという保証があるか。因島高校へ行けば大丈夫だよ、ということなら安心して進学するでしょう。」

―具体的に何を、期待されていますかね。

「高校卒業後、就職する者には、資格がとれるよう頑張らせる。また、クラブ活動なら、相手高校に勝てるよう練習させるとか、目標をもって頑張らせる指導が必要ですね。」

「弓削高専の情報工学科なども、卒業後の先が見えるから安心して志望するんですよね。」

「また、他の島外の学校では、先輩たちの進路情報がいろいろと聞かれるということもありましょうね。」

「この春市内の女子中学生で、陸上競技で実績のある広島の高校に進んだのがいます。自分の力を更に伸ばそうと、鍛えてくれる高校に進学した。これが、中学生の進路と言ってくれたが、そのゾウキンは大事にとってある。

人間は、教育を受けると人間になるのだ。近年、親子殺しのニュースが多いが、間違った教育をしたからだ。

世の中は競争原理だ、競争のないところに進歩はない、ゆとりある教育というのはダメだ。

建学の理念のなかにも、「受験用の知識技術にのみ長けた青白い青年を求めるのでなく、想像力のある実践力、真のリーダーシップをもつ人材、バイタリティーにあふれた人物、いわばインテリジェンス　タフネス（知的逞しさ）を秘めた人間を育てたい。」とうたった。

aaaa

春休み サテライン衛星放送好評

春休み学習合宿が終わって、三月二十三日より、二週間にわたって、「代々木ゼミナールサテライン講座」が実施されました。

東京の「代々木ゼミナール」本校で行われた春期講座が、衛星放送を利用すれば、因島高校の視聴覚教室において、同時刻に受けられるのです。希望申込した三年生が、英語、数学、国語、それぞれ九〇分を、四回受講しました。各教科とも、三〇名ほどの受講生でした。

代々木ゼミサテライン講座は、因島高校で、二、三年前から検討されていましたが、導入に際しての費用の面、また、生徒が集まるか、理解してくれるか、反応はどうか、など運用面での懸念があり、検討段階のままでした。それを、「因島高校ＰＴＡ」及び、「因島高校を支援する会」が、先生方と協議を重ね、実現に至ったものです。

その衛星放送の内容ですが、さすがに全国トップレベルの講師の授業は、受験のポイントをピシッとついて無駄がなく、難しい内容も優しく説明され、しかもユーモアにあふれ、生徒も熱心に受講していました。

指導係の先生方がついておりましたが、その先生方に伺うと、「教員が見ても感心するようなすばらしい授業内容で、ついつい引きつけられ、生徒とともに大型スクリーンにみいってしまいました」と話しておられました。

生徒に感想を聞いてみますと、「国語と、英語の二単元受講しました。おもしろいけど、内容が濃いから、一日二単元受けるとつかれます。」といいながらも、嬉々としてスクリーンに見入っていました。また、「因島にいて、東京の一流の講義が聞けて、よかった。」との声も。

ほとんどの受講生がサテラインの講師の授業が気に入った様子で、アンケートには、「夏期講座を同じ講師の講座を望む」という声が多く、好評の内に春期講座を終えることができました。

保護者からは、「予備校に行くのと比べると、少ない費用負担で、こういう一流予備校の講義をうけることができて、親としては助かります。」「学校がだんだん、勉強するんだという雰囲気になってきた。」等々、喜んでいただきました。

また、新学期からは「小論文講座」が始まりました。

毎月一回の講座にそれぞれ添削用提出課題がつくもので二年生と三年生併せて八〇名ほどの受講生が教室を埋めました。

代々木ゼミナールには、一五〇〇人の講師がいますが、「サテライン衛星放送講座」を担当できるのはトップレベルの講師だけらしく、受験指導のカリスマ講師のさわやかな切り口は一見以上の価値があると思います。

夏休みには、国語、英語、数学の講座を開講する予定です。「春期講座を受講していない生徒さんも是非受けてほしい」また「保護者の方々には少し負担をかけますが、生徒の将来にとって長い目で見れば、絶対得ですよ」と、担任の先生は力説されていました。

入学式おごそかに挙行

四月七日、因島高校入学式が、二〇三名の新入生を迎えて、土生校舎にておこなわれました。壇上には、国旗と校旗が掲げられ、国歌斉唱の後因島高校吹奏楽部が、校歌を力強く演奏しました。

桶東愛生校長から、「悔いのない高校生活をおくるように。そして、支援する会ができた等々、市民みんなが応援してくれてるんだからしっかり頑張って欲しい。」と、式辞がありました。

つづいて、村上正則ＰＴＡ会長から、「中学生から高校生になったということは、自由に行動できる権利をもつが、同時に厳しい責任と義務をも持ったのだ。」と、激励がありました。

竹中啓修同窓会長は、「暇がないから学べない、暇ができたら勉強しようという人が多いが、そういう人は、時間ができても学ぶことはできない。君たちもしっかり学びなさい。」と挨拶しました。

生徒会長曽我綾子さんから、先輩としての歓迎のことばがありました。

参加した保護者からは、「ガヤガヤしてるかと思ったが、生徒も静かで、厳粛な式できもちよかった。」「国旗が壇上にかかげてあり、国歌君が代も流れて、久しぶりに入学式という感じがした。」という声が聞かれました。

福島萬治氏卓球台寄贈

五月七日(月)、因島高校の大先輩、福島萬治氏（旧因島高校一〇回卒業生）が、母校を訪れました。

福島さんは、卓球部後輩が卓球練習台が少ない中、細々と練習しているのを聞き、卓球台を二台寄付してくださいました。

福島さんは、高校時代、因島高校を県優勝へ導き、中国大会や全国大会へ出場。個人戦では、二年連続県優勝し、全国大会で準優勝等々、優秀な成績を残し、専修大学に進学してからも、全日本学生選手権などで大活躍しました。

卒業後、卓球界の名門シチズンへ入社、その年のアジア選手権に出場し、団体優勝、個人三位、ダブルス優勝、混合ダブルス優勝と輝かしい戦績を残されました。

海外駐在勤務の際には、卓球を通じ、各国の名士と、民間交流を果たされましたが、そういうご縁で各国の卓球関係者に旧知が多く、本年大阪で、「世界卓球選手権」が開催されましたときも、大会成功に尽力されました。

当日は、因島高校体育館で、卓球部部員二〇名を前に、卓球の基本として、「全戦必勝」と「全戦不敗」の理論を説き、それに基づいた練習方法や考え方を黒板を使いながら、教えていただきました。その後、実地に指導をしていただきましたが、部員生徒の表情は真剣そのものでした。

最後に、桶東校長から、卓球台寄贈のお礼と感謝状が贈られました。

因島高校卓球部の中から、「第二の福島選手」が生まれることを期待したいものです。

因島高校ＰＴＡ総会開催 学力向上に三〇〇万予算化

五月十九日(土)、因島高校ＰＴＡ総会が、土生校舎体育館で開催され、ＰＴＡ会長には、村上正則会長が再任されました。

本年度、学校の掲げる「学力向上方針」にＰＴＡとしても全力で協力推進する体制です。予算面でみますと、進路充実費に、三〇〇万（昨年予算四九万）、クラブ助成費一三〇万（同七〇万）と、大幅に増額されています。

ＰＴＡ活動としては「進路委員会」は、補習や勉強合宿、サテライン衛星放送等の協力推進をします。

「健全育成委員会」は、参観日等で、学習実態を把握すると共に保護者からの要望問題点をくみとる、また挨拶運動をして生活態度や規律の向上を行おうというものです。

「広報委員会」は、広報誌を高校内はもとより、中学校等、外部にも配布し、高校のＰＲに努めていく計画です。

「厚生委員会」では、生徒が、水軍祭りなど、市民行事に積極参加することを奨励協力し、生徒が一市民としての自覚を高めると共に、高校のＰＲに努める計画です。

市民の皆様のご協力をお願いいたします。

総会に引き続き、代々木ゼミナール講師による「進路講演会」が開かれ、保護者は熱心に聞き入っていました。

高校昨今

四月より新入生が、土生校舎で勉学をしています。先生方にお聞きしてみますと、挨拶もキチンとできているし、身だしなみも整っている、授業態度も良好のようです。

二、三年生は、重井校舎ですが、新校舎が建設中なので、グランドの仮設校舎で勉強しています。毎朝、先生方が校門指導をしていますが、茶髪ゼロ、先生方の地道な生活指導のおかげと感謝しています。ＰＴＡでも、昨年は校門挨拶運動として、協力しましたが、本年も実施するとのことです。

昨年は、制服の着用が徹底されてなく、ジャージやつっかけ等々いろいろありましたが、今年はきちんと制服着用で登下校しています。

そういう姿を町の人が見て、「因島高校もだんだん良くなってきたね」という声があがってきており、先生方の苦労も報われつつあるようです。

また、生徒も、キチンとしなくてはいけないという自覚が芽生えてきたようです。

市民の投書箱

◆最近、高校生のキチンとした通学姿をみるにつけ、先生方や関係者のご努力に感謝するとともに、うれしく思っています。髪の毛の茶髪や黄髪が、黒色になったり、授業時間に自転車でフラフラ運転を見なくなりました。

欲を言えば、シャツがだらしないので、キチンとすれば、もっといいと思います。

（田熊町、市民のひとり）

◆因島高校の同窓生です。遠方より、母校の現状を憂えていましたが、改善の途にあると聞き、胸をなで下ろしている次第です。

大変でしょうが、遠くふるさとを偲ぶ因島人のためにも、よい学校に作り直していただけるよう切にお願いします。

（在京の一同窓生より）

◆春休みに、予備校の一流講師による衛星放送授業があり、子どもがウキウキしていました。時々こういう授業をしてもらったら、いいです。よその学校に負けないよう、もっと補習もしてください。

（土生町、高校保護者）

◆因島が、愛媛県の島と合併の話がでていますが、その場合、教育方針がどうなるのでしょうか。

因島（広島県）では、形骸化した平等教育で、あまり競争せず、みんな一緒にという教育です。運動会でも、順番をつけません。

ところが、愛媛県では、自分の力を、思う存分発揮してがんばれ、という教育です。

また、因島では、国旗国歌反対と教えていましたが、愛媛県では、毎日、国旗が学校の国旗掲揚台にあがっています。

こんなに違う教育方針ですが、どうなるのですか。どちらが正しいのですか。

（三庄町、中学生の保護者）